こんぺき

静岡稲門会
会報第12号
2025.01.05
編集長 小川満

会長挨拶

会長　陰山正敏

静岡稲門会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年の総会では、静岡市稲門会と清水稲門会が合併し、新しく静岡稲門会がスタートしました。

また、今年は志太榛原稲門会の仲間もお迎えし、ますます充実した会となります。

会員の皆様が大いに交流され、公私ともに充実した一年となること、また災害もない穏やかな年となることを心よりお祈り申し上げます。

2024年度 活動紹介

早慶ビアパーティー

7月26日（金）、中島屋グランドホテルで106名の出席のもと、早慶ビアパーティーが盛大に行われました。

応援部からは星野代表委員主将と豊島リーダー、チアは柴田副将と吉橋部員が出席されました。力強い応援と爽やかなダンス、さらに会場をひとつにまとめあげるトークなど、ここ数年で最も盛り上がった応援となりました。一方慶応は1年の女性リーダーが登場し、男性に負けない応援を披露していました。

このビアパーティーも昭和40年代から始まり、すでに50年を超える早慶の歴史ある行事となっております。両校の校友とも学生時代に戻り、応援部の学生との交流を楽しみました。

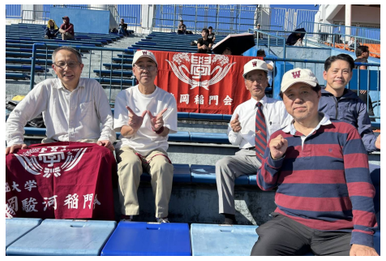
早慶メンバーで集合写真

オータムフレッシュリーグ観戦

静岡で早慶戦！

11月17日（日）、夏を思わせるような晴天のなか、第7回大学野球オータムフレッシュリーグ in 静岡（草薙球場）で早慶戦が行われました。

試合は残念ながら3対2で敗れましたが、仙台育英で夏の甲子園準優勝の尾形捕手や、選抜優勝の山梨学院の高橋一塁手など、来シーズンに向けて、期待の持てる選手が多数出場していました。今後の活躍に大いに期待をしたいと思います。



'24年の行事報告

☆2月9日（金）
新年会　於　グランディエールブケトーカイ

☆5月10日（金）
総会　於　グランディエールブケトーカイ

☆7月26日（金）
早慶ビアパーティー　於　中島屋

☆8月31日（土）
静岡県稲門祭　※悪天候のため中止

☆9月20日（金）
早慶麻雀大会　於　麻雀荘「駅南」

☆10月19日（土）
早慶ゴルフ大会　於　菊川カントリークラブ

☆10月20日（日）
早稲田大学稲門祭　於　早稲田大学

☆11月9日（土）～10日（日）
東京六大学野球秋季リーグ戦 早慶戦　応援

☆11月15日（金）～17日（日）
第7回オータムフレッシュリーグ　観戦

☆その他
静岡県支部 役員会　参加
静岡稲門会 役員会を定期的に開催

おじゃします！校友の職場を訪問

VELTEXスポーツエンタープライズ常務執行役員
下出恒平（しもいでこうへい）さん（'02年　人間科学部卒）

静岡市をホームタウンとするプロバスケットチーム「ベルテックス静岡（B2西地区）」の下出恒平さんにお話を伺いました。

チーム運営のプロフェッショナル

◇下出さんは、現在B1リーグに所属する宇都宮ブレックス、アルバルク東京、茨城ロボッツなどでチーム運営のキャリアを重ね、三年前に静岡にやってきました。仕事は「ファンづくり」。スポンサーの獲得、集客、広報、会場の設営・演出、グッズの販売など観客が「安全」「安心」に「ワクワクするゲーム」を提供するためには何でもするそうです。

スポーツを通じての地域活性化

◇豊富なキャリアのなか、下出さんが当時B3リーグだったベルテックスに赴いた理由は基本理念「スポーツで、日本一ワクワクする街へ」への共感でした。

バスケットボールは観客との距離が近く、選手の息遣いや表情が良くわかるうえ、得点の度に一喜一憂する競技性が人気を集め、ファンの6割は女性です。バスケットボールの持つ、一体感や熱狂を「未来の静岡の街づくり」に役立てたいと考えています。

4000人規模の新アリーナの設立

◇現在のホームである静岡市中央体育館は客席が千席に満たないため、試合の度に2千近くの椅子を運び込みます。会場の設営、片付けで年間4000万円もの出費があるそうです。

新アリーナの設立はクラブの発展の大きな鍵になり、実現に向け、最大限の努力をしています。

写真提供：ベルテックス静岡

シュートを決める新川敬大選手

静岡がお気に入り

◇静岡は温暖で食事も美味しく、実家の東京にも帰りやすいとお気に入り。とりわけ、ふと目に入る富士山の存在が素晴らしいそうです。

稲門の仲間も大活躍

ベルテックスには早稲田出身のシューティングガード新川敬大（しんかわけいた）選手（29）も所属し、B1リーグも狙える勢い。ぜひ会場に足を運び、静岡のホームチームを応援しましょう！

'25年の行事予定

☆2月21日（金）18時30分～
新年会　於　グランディエールブケトーカイ

☆5月9日（金）
総会　於　（調整中）

☆7月12日（土）
静岡県稲門祭　於　ホテルコンコルド浜松

☆7月25日（金）
早慶ビアパーティー　於　（調整中）

☆9月19日（金）
早慶麻雀大会　於　麻雀荘「駅南」

☆10月4日（土）
早慶ゴルフ大会　於　菊川カントリークラブ

☆10月19日（日）
早稲田大学稲門祭　於　早稲田大学

☆その他
第8回オータムフレッシュリーグ　観戦
東京六大学野球秋季リーグ戦 早慶戦　応援

「こんぺき」は静岡稲門会の会報です。校友で紹介したい記事、情報などありましたら、事務局まで遠慮なくご相談ください。新入会員等も随時募集していますので、ぜひお声がけください！

静岡稲門会
ホームページ

◇事務局長 白濱史教
080-3820-8282

東京六大学野球 春秋連覇

リーグ最多の通算優勝回数「48」

伝統ある東京六大学野球で早稲田大学が春秋連覇、史上最多を更新する48度目の優勝を成し遂げました！
その偉業を記念して、それぞれの「想い出の早慶戦」について寄稿していただきました！

応援部と早慶戦

株式会社東芝 静岡支店　支店長

阿部琢也（1993年　社会科学部卒）

早実中学部の学年行事で秋の早慶戦観戦に赴いた時、自分の夢が固まりました。試合前の校旗入場、エール交換、そして整然とした熱い応援。一塁側外野学生応援席で、中学生ながらそれを構成する一員としてその場にいられた幸せを感じたことをいまでも思い出します。

時は流れ、数年来の思いを胸に、入学と同時に応援部に入部。憧れの早慶戦で、しかもそれを演出する側として関わることができる。そんな夢が叶った…と思ったのも束の間。それは応援部としての厳しい毎日の始まりでした。想像を絶する厳しい練習、朝から晩までの雑用。そして六大学野球をはじめとする各部の応援。好きで始めたとはいえ、１年春の早慶戦までもつ自信もありませんでした。しかし、熱い想いや情熱に支えられ、４年間の応援部生活を全うすることができました。

在学中の想い出は、３年春の早慶戦。勝った方が優勝という大一番は第３戦までもつれ込んだ末の勝利。そして感動の優勝パレード…の時には神宮の器材等撤去隊長として慌ただしく過ごしました。何事も華やかなシーンの裏には誰かが陰の役割を演じているものです。

卒業して３０年以上経った今でも神宮球場で校歌を歌い、風に靡くエンジの校旗を見ると、故郷に戻ってきた様な温かい気持ちに包まれます。静岡のみならず世界に広がる卒業生皆さんを、早稲田は温かく包んでくれることでしょう。

はじめての早慶戦

静岡県公立高等学校退職校長会　会長

吉田昌弘（1975年　第一文学部卒）

大学受験に失敗し、気持ちの整理がつかないまま、高田馬場の予備校に通っていました。（昭和45年は、はるか昔のことです。）下宿は大学の近く、同じ予備校に通う13人の学生と寝食を共にしました。

5月に入ると、この下宿から早稲田に入学した先輩が訪れ、早慶戦に誘ってくれました。そこで予備校生が大挙して満員の外野席から早稲田の応援に参加することになりました。

現役応援部と記念撮影
左から阿部琢也さん、吉田昌弘さん、八鍬晴康さん

リーダーは白地にエンジのストライプのトレーナーを着た、とても爽やかな方でした。紺碧の空の応援は歌舞伎を思わせるような斬新で迫力あるものでした。

また、掌を上下左右に動かし、稲穂をイメージするサイレントモーションや「花は桜木、男は早稲田」の走るウェーブなど、ユニークな応援は観客を魅了していきました。さらに、タバコを思い切り吸い、吐きだす煙幕作戦は球場を煙に巻いて圧倒されるものがありました。

試合が終わり夕闇が迫るなか、セレモニーが延々と続くのも早慶戦の魅力。まさか人生劇場をここで聞くことになるとは思いもよりませんでした。神宮から興奮冷めやらぬなか、下宿に戻り体が熱くなっているのを覚えています。

後日、大学近くの制帽店に行き角帽を購入して、受験勉強に苦しくなった時、この角帽をかぶることにしました。そして1週間に一度は大隈銅像に合格祈願することに決めました。

早慶戦は自分が大きく変わるきっかけとなりました。早稲田の応援を通じて、何事も全力で、最後まであきらめず、笑顔で頑張ることの大切さを教えてもらったように思います。

早稲田に向かい、力強いエールをいただいた早慶戦でした。

聖地　神宮

株式会社静岡銀行　総務グループ長

八鍬晴康（1989年　教育学部卒）

神宮に通い続けて、前回秋で丸40年、80シーズン目を迎えました。ちなみに私は応援部ではありません。

長い歴史に比べれば、自身の観戦歴などまだまだですが、コロナ禍の変則日程時を除き、早慶戦は必須、早慶戦以外を最低1試合と半ばノルマにしてきました。

初めての神宮球場は'85年入学直後の東大戦。学生県人会「遠州人会」の先輩に連れていかれたのが始まりです。

学生応援席に入るやいなや「なんだこの世界は！」と激震が走りました。校歌・紺碧は当然のこと、応援歌の数々、コンバットの迫力、まだバトントワラーズだった現チアの演技、そして守備中応援（昔は音出しも何でもあり）や下級生演芸等のパフォーマンスなど…

その後、４年次では学生県人会の連合組織「全国早稲田学生会連盟」の委員長を拝命し、応援部とともに、全国のコンサートなど回ったり、たまたま教育学部の同じクラスにリーダーの２人がいたこともあり、アラカンの今に至るまで応援部との交流は続いています。

こんな楽しい経験、他大学にはないコミュニティなのに、最近では球場には現役学生の姿はまばら。秩父宮のラグビーに至っては高齢化？に拍車がかかっている状況。これにはもっと問題意識をもたないと、と思ったりします。

神宮外苑の再開発計画が、政治的な軋轢を招いているのも残念な限り。「聖地」とはハードだけでなく、カルチャーやヒストリー、ひいては個々のハートがあってこそ。

母校同様の「心の故郷」に、これからも可能な限り足を運び、「一生青春」していくつもりです。

早稲田大学自動車部創部90周年に思うこと

静岡醤油合資会社　会長

陰山正敏（1969年　文学部卒）

令和6年11月30日、ホテルルポール麹町（東京）で行われた創部90周年祝賀記念式典に参加してきました。式典では稲門体育会の河野洋平会長や大学関係者達の祝辞がありました。

―おいらは天下の早稲田マン、心の宿りは自動車部、朝から晩まで辛いけど、ちょいとやめられぬ良い所―と部員達が歌うように、長い歴史の中には、部活経験者それぞれの想いがあります。

私は第36代主将を務め、箱根駅伝の伴走車ドライバーなども経験させていただきました。当時の伴走は監督の指示で自在に車位置を変えるなど技術も機転も必要で、絶対に事故などを起こしてはならないのは勿論で、緊張の連続でした。その後の箱根駅伝では先導は白バイ、伴走車は監督車（運営管理車）と形を変えルールに従い運行されています。テレビ中継など観る度に、当時の緊張が懐かしく想い出されます。

主将　陰山正敏

部費稼ぎのためのアルバイトに精を出したり、体育単位取得学生のために正課授業助手として軽井沢合宿に参加したりと、忙しい中にも充実した楽しい日々を過ごせました。

創部初期の頃と現代では、車の性能も格段に向上し、安全性も重視されるようになっています。スピードも上がり、レース内容も競技スポーツとしてますます充実してきています。

その後、私も社会人としていろいろな経験をしてきましたが、どんな場面でも自動車部での貴重な体験が支えとなり、対応できてきたのは間違いありません。

まさにわが人生に悔いなしです。

自動車部創部90周年

歴史ある早稲田大学自動車部が'24年で創部90周年を迎えました！

そこで、OBである陰山正敏会長に、当時の想い出について綴っていただきました。